

ここが知りたい！ 飯田学園構想

Q & A

Q 小中一貫した教育を
することで何が良くなるの？

A

「9年間でめざすこどもの姿」を決め、小中学校の先生が一つのチームとなって教育活動に取り組むことで、こどもたちの成長がより確かなものになります。また、特別な教科「みらい創造科」を創設し、それぞれの学園ごとに特色のある教育を進めることができるようになります。



Q 学校の呼び方はどうなるの？

A

正式名称は、今までと同じ飯田市立〇〇学校です。なお、学校行事などにおいて、だんだんと〇〇学園〇〇学校と呼ぶようにします。



Q 学校施設が分離したままで
一貫した教育を進められるの？

A

施設が分離しているので制限はありますが、先生同士の打ち合わせやこどもたち同士の交流にはICTを有効に活用します。また、直接顔をあわせる機会は重要であるため、直接交流できる機会も充実させたいと考えています。



Q 先生の負担は増えないの？

A

学園を立ち上げていくにあたっては、先生の負担が増える可能性があります。立ち上げにあたっての先生の負担を軽減できるよう、飯田市教育委員会として支援を行っていきます。



Q 飯田コミュニティスクールって
どんなことをしているの？

A

飯田コミュニティスクールは、地域住民や保護者の方々が学校と協働し、こどもたちの学びを日々支えている仕組みです。また、各学校に、地域の代表の方や保護者の代表の方、地域で子育てに関わっている方などで組織する「学校運営協議会」を置いて、学校運営方針の承認や学校運営状況の評価をしています。



Q 校歌や校章は変わるの？

A

校歌や校章は変わりません。



Q 児童生徒数の減少や施設の
老朽化にはどう対応していくの？

A

今後、さらに「飯田市これからの学校のあり方審議会」での審議を進め、学校の適正な規模についての飯田市としての考え方や学校施設についての考え方を整理し、学校施設の配置等を優先的に検討すべき学園や、その先の検討の進め方を第2次方針として示していきます。第2次方針を決定するにあたっては、広く地域の皆さんや保護者の皆さんのご意見をお聞きする予定です。



飯田市立小中学校の
今後のあり方に関する方針
～第1次～の詳細はこちら



飯田学園構想

飯田市
教育ビジョン
地育力による
未来をひらく
心豊かな人づくり

保護者も地域の人も通わせたい「学園」

こどもたちが通いたい「学園」



令和7年4月から「飯田学園構想」が始まります

変化が激しく、先行きが見通しがたい時代の中、飯田市ではこれまでの教育活動をさらに充実させ、こどもたちが生涯にわたって主体的に、他者と協働しながら生き抜いていける力の基礎をしっかりと育む「飯田学園構想」に取り組みます。

飯田市で積み重ねてきた特色ある教育活動

「飯田学園構想」では、これまで積み重ねてきた特色ある教育活動を、さらに充実させていきます。

- 「飯田のキャリア教育」 生き方を学ぶ教育を推進
- 「小中連携・一貫教育」 小中学校の連携を推進
- 「飯田コミュニティスクール」 地域の皆さんが学校の運営を支える仕組み



こどもたちの豊かな学びの場を目指して ～飯田学園構想が始まります～

飯田市内の小中学校を、中学校区ごとに9つの「学園」とします。

各学園では、小中学校の9年間で、こどもたちがどんな姿に育ってほしいのかを、保護者や地域の皆さんと話し合って決め、その実現に向け、こどもたちの成長に合わせた学び(小中一貫教育)を進めていきます。



竜峽中学校
「ふるさとめぐり」



生徒が自分が住んでいる地域を紹介し合い、それぞれの地域の名所を巡り地域の魅力や課題を発見する取組。

自分と地域の未来を切りひらく 「みらい創造科」に取り組みます

「みらい創造科」は、地域の特色を生かした学びを通して、自分の生き方、あり方を考え、自分と地域の未来を切りひらく力を育みます。

どんな学習をするのかを学校と地域で話し合い、協働してこどもたちの豊かな学びを支えます。

3校合同で他校の友達と地元農家の民泊を体験。農家の方の農業と地域に対する思いを知る機会。



千代・千栄・上久堅小学校「ふるさと子ども夢学校」

飯田東中・追手町・浜井場・丸山小学校
「りんご並木」



飯田のシンボルである「りんご並木」。中学生が中心となり、小学生と摘果し、高校生と花を植え、地域の方と作業する取組。

異年齢で学び合う 学校・学年を越えた活動を充実させます

授業や、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事などで、異年齢による学校・学年を越えた活動を充実させ、人とかかわりをもち協働していく力を高めます。

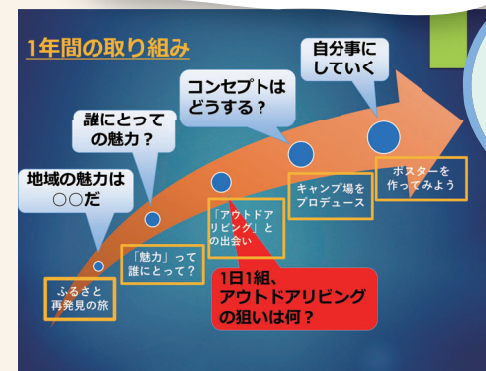
飯田西中生と丸山小6年生が合同で、一年間の地域学習の成果を発表し合い、意見交換する機会。



飯田西中・丸山小学校
「かざこし学習発表会」

こどもたちの問いや願いを大切に 「ムトスの学び」を推進します

実際に「やってみる」「体験する」「人と出会う」といったことをもとに、そこから生まれるこどもたちの「なぜ?」「どうして?」という問いや「～したい」「～になりたい」という願いを大切にして、教師の支えを得ながらこどもたちが主体的に学ぶ「ムトスの学び」を進めます。



竜東中学校「地域探究型総合学習」の1年間の取組過程

ふるさと再発見の旅で地域を歩き、体験的な活動から新たな気付きや問いが生まれ、生徒自ら地域のキャンプ場のプロデュースを提案。仲間と共に、主体的に学ぶ「ムトスの学び」につながる。

飯田学園構想による効果と意義

小中一貫教育

小中学校の先生が一つのチームとなり、学びのつながりをつくることで、こどもたちが階段を上るように着実に力を身に付けていきます。

みらい創造科

地域の人たちと関わる体験的な活動を通して、自分やふるさとの良さや可能性に気づき、自分の生き方を考えていく学習を積み重ねることで、こどもたちが豊かな人生を切りひらいていく力を身に付けていきます。

異年齢の学び合い

異なる学年のこどもたち同士の学び合いが増え、こどもたちがお互いの違いを認め合い、人とつながり合って生きていく力を身に付けていきます。

ムトスの学び

こどもたちの「なぜ?」や「～したい」を出発にして、自分から進んで学びに向かい、よりよい考えや行動を生み出し、さらに学ぼうとする意欲を育んでいきます。

飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ～第1次～【概要版】

今後のあり方に関する検討の視点

- ☆ 特色ある教育をどのように進めるか
- ☆ 学校施設の配置・枠組はどうあったらよいか

令和6年10月
飯田市教育委員会

方針策定の背景

これからの教育に求められること

- 学習者視点の「主体的、対話的で深い学び」に転換
- 「個別最適な学び(指導の個別化・学習の個性化)」
「協働的な学び」の推進

飯田市の小中学校教育を取り巻く状況

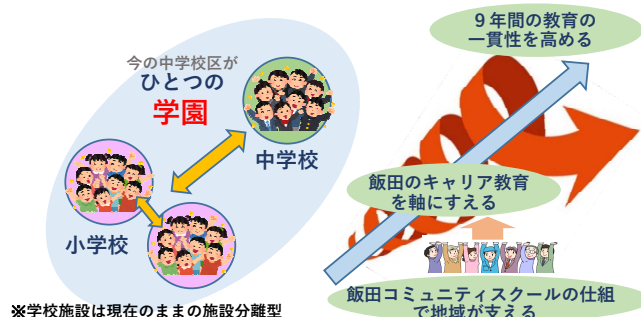
- △ 急速に進む児童生徒数の減少
(H5:11,743人⇒R5:7,574人⇒R11:6,437人)
- △ 大規模な改修・改築が必要な学校施設の増加
(R5築50年以上:13/28校⇒R11:25/28校)
- △ 地域の担い手や支え手の減少への危機
(地域人材育成の役割の重要性が増し、地域の特色を生かした魅力ある学校づくりが求められる)

飯田市の教育の特長

【教育ビジョン】

地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり

- H18～ 飯田のキャリア教育(生き方を学ぶ教育)
- H23～ 小中連携・一貫教育
- H29～ 飯田コミュニティスクール



小中一貫校としての「飯田学園構想」

学園構想の目的

学園構想は、義務教育課程9年間の学びの「系統性と連続性」を高め、各学園で「教育目標」や「めざす児童生徒の姿」を共有して小中学校教職員が一体となり、飯田コミュニティスクールとして地域・家庭も子供たちの学びを支え、生き方を学ぶ教育でもある飯田のキャリア教育を軸にした教育活動を行うことで、**子供たちが、変化が激しく、先行きを見通しがたい時代を生き抜いていく力の基礎を、これまで以上にしっかりと、豊かに育んでいく**ことを目的とします

学園のあらまし

- * 中学校区の小中学校を**小中一貫教育を行う9つの「学園」**として規定します
飯田東学園・飯田西学園・緑ヶ丘学園・竜東学園・竜峽学園・旭ヶ丘学園・鼎学園・高陵学園・遠山郷学園
- * 現在の小中学校の施設を生かした「**施設分離型**」(小学校と中学校が距離的に離れている型)とし、教職員の会議や研修、小中合同授業や活動にはICTの効果的な活用も図って進めます
- * 小学校6年間、中学校3年間の教育課程のまま小中一貫教育を行う「**小中一貫型小学校・中学校**」とします

学園における学びの変化と効果

- ① **小中学生が一緒になって行う授業や特別活動(児童・生徒会活動、行事等)の機会が増えます**
⇒ 子供たちは多様性を認め合い、人とつながりあって共に生きていく力を身につけることができます
- ② **義務教育9年間の学びの系統性と連続性が高まります**
⇒ 子供たちは階段をより確実に上りながら資質・能力を高めることができます
- ③ **飯田のキャリア教育(地域の人や資源・課題と関わる実体験を通して生き方を学ぶ教育)を、9年間の発達段階に即して、順序立てて効果が上がるように行います**
⇒ 子供たちは自分自身で生き方を考え、他者と協働して切りひらく力の基礎を身につけることができます

学園における教育の特長

- ① **飯田のキャリア教育を軸にした小中一貫の特設教科を新設**
 - ・ 生き方を学ぶ教育ともいえる「飯田のキャリア教育」を軸にした飯田独自の特設教科を設け、学園地域の資源や課題を教材に、地域の多様な人と関わる実体験を重視した学びを9年間の発達段階に即して行うことで、子供たちの課題に向かう力や人とつながる力を培います
- ② **ムトスの学び**
 - ・ 児童生徒の「なぜ?」「どうして?」という「私の問い」と、「～したい」「～になりたい」という「私の願い」を生み出し、子供たちが主体的に学習に向かう状態をつくり出します
- ③ **異年齢集団による学習や活動**
 - ・ 合同授業や特別活動(児童・生徒会活動、行事等)で、小中の垣根を越えた異年齢での学びや活動の機会を充実させ、社会生活において要となる異年齢集団での適応力や協働意識を育みます

スケジュール

- <R6年度> 制度概要や、全市および各学園における協議推進体制等についての検討
- <R7年度> 4月から、教育委員会規則で定めた「学園」としての仕組みをスタート
(特設教科は、7年度に学校・地域・家庭が連携して学習内容を検討し、8年度から取組を開始)

～ 自分と ふるさとの未来をひらく ～

みらい創造科



各学園の特色を生かして、小中一貫教育を進める核となる教科を新設します

- ・国の制度を活用して特設する**飯田市独自の小中一貫教科**です
- ・小学1・2年生の「生活科」と小学3年生からの「総合的な学習の時間」の一部をあてます

「飯田の こどもたちが、ふるさとに心根をもって、自分らしく生きていく」 その土台となる資質・能力を育む「**ムトスの学び**」

自分の良さや得意を生かして

願いや疑問をもって主体的に学ぶ

学習目的	児童生徒が生きていく時代の予測	身に付けてほしい力
私の 未来をひらく ふるさとの	変化が激しく、様々な課題に直面しながら生きていく時代	様々な変化に対応でき、課題を乗り越えながら生きていける力
	多様性が尊重され、新たな生き方が可能になる時代	自ら考え判断し、他者との協働しながら提案や行動ができる力
	ふるさとの人口が減り、活力の低下が懸念される時代	ふるさとに愛着と誇りを抱き、より良くする取組に参画しようとする意欲
	地域に個性や魅力があれば、地域外からも人が移住してくる時代	ふるさとを理解し、より良くしていくための多様な発想ができる力

学校と地域が一緒になってカリキュラムを作り学びを支えます

- ◎ 学習カリキュラム(学習内容計画の配列)を、飯田市の共通指針を参考に、各学園の特色や課題を生かしながら、小中学校の先生と地域の方々が話し合ってつくり、学習を支援します

地域の資源や課題を活用し、地域の人と関わる実体験を重視した学びを行います

- ◎ 地域の資源を教材にして、多様な地域の人たちと関わり合う実体験をともなう学習を重ねることで、児童生徒は自分の生き方を考え、生きる力にしていきます

探究的な学習を発展的に繰り返し、課題に向かって解決する力を養います

- ◎ 児童生徒が課題を設定して、その解決に向けて情報を集めて整理・分析したり、周囲の人と意見交換したりしながら進めていく探究的な学習を繰り返し発展的に行うことで、課題に向かい、他者とも協働して解決していく力を養います

「みらい創造教育(飯田のキャリア教育)」の中核となる教科に位置づけます

- ◎ 人とつながる力、自分を見つめ夢や希望を描く力、課題をもって最後までやり抜く力、職業や仕事に興味関心をもつ力を育む「みらい創造教育(飯田のキャリア教育)」の中核となる教科に「みらい創造科」を位置付けて取り組みます

小中9年間の系統的な学び

「みらい創造教育(飯田のキャリア教育)」を軸に

こどもの学びを地域で支える

